

掃除のお話・・・掃除ができるということは・・・

(2018年6月号より再掲一部改)

もう40年近く昔の夏、とある観光地でお土産を売るアルバイトをしました。繁忙期だけのアルバイトでしたので、その年はそれで終わり。結構時給がよかった(700円くらい)ので、次の年も雇ってもらおうと思っていました。



そして次の年、繁忙期の少し前、そのお店へ行って、「去年バイトでお世話になりました。今年もお願いします。」と言うと、店のおかみさんが、「うちは、久村君に頼むことにしてるから。」と断ろうとする。

(いえいえ、だから、私が久村です。)

「あの、久村です。」

「そうでしょ～。あなたに頼もうと思ってた。」

(うそでしょ～。絶対、僕を忘れてた。)

「久村くんは、そうじができるからねえ。」

とおかみさん。

(へえ。そんなんでいいんだ。)

・・・寛容な久村は、おかみさんが私を忘れていたことは水に流すことにしました。ただ、お時給は上げてもらいましたけど・・・

「そうじができるから」というおかみさんの言葉から振り返ってみると、今までたくさんの人に掃除を教えもらったなあ、懐かしくなります。母と父、祖母、小学校の先生、中学校の先生・・・

「朝起きたら掃除をきなさい」、「畳の目に沿って掃きなさい」、「板目に沿ってまっすぐに雑巾を使いなさい」、「水場は常に美しく」。それから、ほうきの柄の傾きの意味と左右の形の違いの意味など。身についたことすべてが、そういう教えのおかげです。

さて、頓原中に赴任してすぐに近隣バレーボール大会が、本校を会場として行われました。そこで驚いたのが、器具庫からトイレまでどこも完璧に掃除が行き届いているということ。今まで見てきた体育館の中で、抜きん出て一番きれいです。

『先生方の力だなあ。』とっていました。

そこで、職員朝礼の時に、

「体育館掃除が行き届いています。これまで見た体育館の中で一番きれいです。先生方のおかげです。ありがとうございます。」と話したところ、

「校長先生、それは生徒がやってるんです。」とのこと。

さらに後日、ある先生が、

『ぜひ学校便りに載せてほしい。』と、こんな話を持ってきてくださいました。



体育館掃除担当の生徒は5名。皆、一生懸命にやってくれます。でも10分間の掃除時間では限界もあります。そんな中、2年生のU君は、「10分ではきれいにならない。」と言って、掃除の時間が始まる前から取り掛かっています。

U君の気づきと、行動力(つまり主体性)。そして、それを認める周囲の雰囲気・・・素敵ですね。

「掃除の時間」だけでなく、生徒たちは学校が始まる前に、交代で「朝掃除」をしています。

始業前、というところが特にいい。始業前の玄関掃除って、まるで社会人ですね。おかげで、気持ちよく人をお迎えできます。

人や社会に役立つ仕事を生徒たちが担っている。そんな頓原中を誇りに思います。



新幹線の車内清掃の様子を写した動画が、世界の注目を集めています。

その動画には、①わずかな停車時間に手際よく列車を清掃 ②一列にホームに並んで、出発する列車にお辞儀をして見送るという二つの場面が映っています。その間約7分。「奇跡の7分」とも言われているそうです。

動画に映っている一連のルーティンは、実はある一人の女性が個人的に始めたということが知られています。それが今や、会社の外にまで広がって、多くの路線で行われ、世界の人々を驚かせている。

(『新幹線お掃除の天使たち「世界一の現場力」はどう生まれたか?』遠藤功・著 あさ出版)

生徒のみなさんが掃除をする姿から思いを巡らせました。掃除の時間に割り当てられた仕事をきっちりすることが中学生としてまず大切。そして、どうやったらもっときれいになるかを考えて自分なりに行動すると主体性がどんどん育つ。さらには、頓原中学校の一員として必要な仕事を担ってやり遂げると、自分が暮らす社会の当事者としての実感や意識(当事者意識)が生まれ、次元が高い社会性が育つ。そんな生徒たちが、プライドを持って仕事をする大人になる日が楽しみです。